

日本エヌ・ユー・エス株式会社

JANUS CCS News

日本エヌ・ユー・エス株式会社（略称 JANUS）は、温暖化対策技術の一つである二酸化炭素回収・貯留（Carbon dioxide Capture and Storage, CCS）に関して、10 年以上にわたり海外動向調査、国内法規制検討業務、国内 CCS フィージビリティ調査、海洋隔離関連調査、社会受容性に関する研究等、様々な業務を実施してきました。また、国際的な CCS 研究機関である Global CCS Institute（GCCSI）のメンバーである他、IEA、IEA-GHG 等が主催する国際会議にも数多く参加し、国内外を問わず広い CCS 関連ネットワークを持っています。

CCS は、米国で 1970 年代から実施されている CO₂-EOR 事業に始まり、1996 年に開始したノルウェー Sleipner プロジェクト等を経て、2014 年には発電所を排出源とした世界初の大規模プロジェクトである Boundary Dam（カナダ）が始動、そして国内では今年から苫小牧 CCS 大規模実証試験の圧入が始まりました。このように着実に進む技術の実証と並行して、関連政策や投資といった

CCS 実施のための環境も世界的に整いつつあり、さらにパリ協定の発効を目前に今後 CCS を取り巻く国内外の情勢が大きく変化することが予想されます。

そのような中、JANUS は、CCS に関する適切な情報を分かりやすく関係者に届けることを目的に、世界中に氾濫する関連ニュースの中から厳選して JANUS CCS News として HP 上で発信しています。

